

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鎗木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

祭り----- 谷 明 自慢もほどほどに----- 板井 省司  
露天風呂----- 北村 耕三 金縛り----- 中村 庄治

## うすい道

吉井 弘

臼井の北側の台地は、大名宿という。

台地全体が臼井城の城内であった。一般に、土地には住所表示と地番があり現在もその地番を大名宿と表記する。

古道には道標が存在する。

追分道標より実蔵院の山門前を通り「くすのき道標」のある道場作より外城へ上がり、太田図書の墓前より円応寺坂を下るのが道筋であったという。

子安観音は「お安様」と呼ばれ、古くから地元の女性たちの信仰があつく、「くすのき道標」とも呼ばれる。この道標は安政4年とある。

また、大名宿の実蔵院近くのT字路を「追分」と呼び、道標が一基建てられている。

正面には「右成田みち」右面に「左江戸みち」左面に「西さくら道」とある。裏面に文

化3年とある。賑わった街道であった。

いまひとつの道標は小笹台にある。小笹台は、臼井旧駅の800メートル佐倉よりにあった。現在は、線路の踏切を渡り約100メートルのT字路に道標が建っている。

そこから佐倉方面に左折すると、丘陵地がある。そこには光勝寺という古刹がある。

その先にある高台には姫宮がある。その場所が小笹台という。現在も表記されている場所である。絶景地である。

かつて、うすい道の高台（新坂）に大きな常夜燈があった。

成田詣で盛んとなった時期に建てられたものである。明治22年に切通しを開いてこの坂道を通したのである。

成田街道（臼井宿）には、旅籠8軒と茶屋7軒があった。

道標から手繰橋までは、「弥右衛門坂」といわれている。

古老の話によれば、当地では、子どもが生まれると、八幡神社へ参詣し、この坂の途中にある浅間社と浅間神社に、祈願するという風習があった。さくら道の「うすい道」を中心に、言述したのだが、江戸時代から、明治にかけてはこの街道は、荷馬車と人混みで、道の反対側へ渡れない程の盛況であったと言われている。

道は、人間でいう血管の働きをする。

道は人が歩いて、道になる。時代の変化で人が往来しなくなり自然に消える。古道となる。昔はうすい道に、本陣（紀伊国屋吉兵衛）があり、街道筋には豆腐屋、床屋、桶屋など商人がいた。うすい道はにぎわいのある宿場まちであった。

（参考・うすい伝説めぐりの会）  
（編集委員）

## 祭り

祭りは心ウキウキ胸ワクワク踊らせませす。市民カレッジには、1年に二つの祭り有り、一つはスポーツフェスティバル二つは文化祭の舞台発表です。入学し役員人事を決める際、人気があったのはスポーツ委員と文化祭委員でした。

ひと月もたない頃、スポーツ委員よりフェスティバルについて話あり。競技には全員参加し、競技種目ごとに参加者を決定し応援団長も決定。脚本、演出、実技指導者、と同時に音楽、音響、ナレーター等、担当者が決まり練習に入りました。この過程を見て、担当者達にはいろいろな才能があると感じさせられます。クラス全員も嫌がる事なく参加し練習を繰り返し上達してくると、本番に向け段々と熱意が高まり仲間意識が生まれてきます。本番は、クラス全員が優勝目指し頑張る気持ち

になります。祭りの祭典、応援合戦が始まると入場行進、舞台演技をし各競技に参加し、頑張り奮闘しましたが、得点競技の結果、残念ながら5位でした。

後日授業後に、担任の先生に臨席戴き、クラス全体の会食を催しました。楽しく談笑する宴の中で数多くの人から話が出ました。優勝出来ずに残念だ、悔しい思いをした、あの時ボールを落とさなければ、来年は優勝するぞ等、クラスみんなが思い思いの感想を述べました。思うに個々で競うのでなく仲間と共に戦い勝てば感激し、負ければ悔しがり、その都度連帯感が生まれ仲間意識が広がり楽しませてくれる祭りです。勝っても負けても、終われば笑い飛ばし仲間の絆を深め、楽しむのが一番。

次の舞台発表に臨み、祭りを大いに期待し楽しみます。

(白銀 谷 明)

## 自慢もほどほどに

人とは「自惚れ」が強いもの。子供のころから他人には自慢話をしないようにと諭される。しかし酒飲みのビールの銘柄当ての自慢話は罪がない話である。

私は「味覚音痴」を自称している。ビールなどアルコール類については銘柄にはこだわらない。理由を問われれば、育ちが悪い性だとしている。強いて言えばビール・日本酒は辛口、焼酎は匂いの強いもの、ワインは甘口である。

同好会の懇親会で余興があり、ビールの銘柄当てに私を含めて8名が挑戦した。ビールと発泡酒を含む7銘柄と日本酒と焼酎を当てるのだ。

結果は、日本酒と焼酎は誰でも当たる。ビール類のわずか1銘柄だけを当てた人が3人、私を含めて5人は全く当たらず。ビールと発泡酒の区別さえできないのだからお粗

末。要は、1銘柄を当てた3人も恐らくまぐれ当たりだろうと思う。しかも、ビール類を先に味見をすると、日本酒、焼酎、泡盛の区別さえもつかなくなるそうだ。

以前から聞いてはいたが、一般の人がビールや日本酒の銘柄を当てると云うことは甚だ難しいものであることを実感した。それでも銘柄当てを自慢する人には、「自惚れもほどほどに、講釈だけにしておいたら」と忠告したい。

よく人間の五感ほどスゴイものはないと言われるが、条件によっては五感ほどいい加減なものはないという見本でもある。

結果、ビール会社の高いTVコマースシャル料はもったいない話と言えるのかどうか？言わぬがハナである。

(ユーカリが丘 板井省司)

## 露天風呂

露天風呂、良いですよネ。  
小鳥のさえずり、爽やかな風、  
満天の星空…… ゆったりと温  
泉に浸る時間の何と風流で贅  
沢なことか！

そんな露天風呂が佐倉の志  
津にあるのをご存知ですか。

志津駅前に1991年に誕  
生したスポーツクラブ。以来、  
多彩な設備やカリキュラムを  
有しつつ、その庶民的な事業  
運営が高齢化率の高い志津地  
区にフィットし、多くの市民  
に愛されてきました。しかし  
近年、団塊世代の退職者の入  
会増もあって、狭隘化と老朽  
化が気になっておりました。  
一方、経営側では、少子高  
齢化、健康増進と医療費増大  
の抑止といった社会性に着目  
し、「地域社会の健康を支え  
るフィットネスクラブとして  
の価値を創造し続ける」とい  
う企業理念を打ち出し、こう  
した視点から上志津店の増改

築に着手されました。

一昨年9月にオープンした  
館内に足を踏み入れて、どの  
設備もゆったりとなり、なん  
となく垢抜けけたのに驚きま  
したが、最大の衝撃は露天風  
呂の登場でした。内湯から外  
呂の出ると、220cm×205  
cmの浴槽とその1・5倍の  
広さの空間で構成される露天  
風呂です。この空間が秀逸で  
長椅子が一つ置かれているだ  
けの広場なのです。吹き抜け  
の天井からは季節ごとの空と  
雲が広がります。そうです！  
吹き抜けを広くして、浴槽か  
ら眺める空と雲の量を多くし  
たのが空間の存在意義だと気  
づきました。

リニューアルから2年、露  
天風呂に賭けた経営陣の思い  
が会員に伝わり、露天風呂は  
好評です。

(中志津 北村 耕三)

## 金縛り

これから話すのは「金  
縛り」です。そのような話に  
は興味がないと言う方は、パ  
スしてください。

40年位前になりますか、秋  
田の寒風山の付近にある妻の  
実家に、毎年のように家族で  
帰省していました。そして、  
私はタバコの葉の収穫の手伝  
いをしました。

ある日の夜の事です。気  
がつくと「金縛り」状態でし  
た。目だけは覚醒しています  
が、指先まで動けません。

当時は、蚊帳の中に家族で  
寝ていました。蚊帳の外を見  
ると、小柄な人がちよこんと  
正座しています。髪は刈り上  
げています。顎が尖った青年  
のようでした。視線は妻か子  
供の方向です。私は動けず、  
声も出せません。

このような「金縛り」は以  
前にも経験があり、脱出する  
には指先・足先から少しずつ

動かして全身が覚醒するよう  
に努力します。気がつくと先  
程の人影は消えていました。

これは、誰かの霊が来たのか  
と、蚊帳を出て外に行きまし  
た。トイレが外にあります。  
月もなく満天の星空で、向か  
いの寒風山が黒々と見えるだ  
けでした。

翌日、タバコの作業をしな  
がら、その話を皆に冗談混じ  
りで話しました。皆の意見で  
は、そのような青年はいない  
と笑っていました。

その翌日、親戚のおばあさ  
んが亡くなったと連絡があり  
ました。その人は妻と良く話  
す人だとのことでした。髪型  
は後ろを刈り上げ、顎の細い  
小柄な人でした。私は会った  
ことがありません。私がこの  
おばあさんに似た人影を見た  
のは、ご本人がまだ存命の時  
です。あれは誰だったのでし  
ょうか？

(山崎 中村 庄治)

## 2月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL: 043-485-1801 FAX: 043-485-1803

〒285-0025 佐倉市鐺木町 198-3

E-mail: chuo-public@city.sakura.lg.jp

URL: [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0\\_1.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html)

『なかま』は佐倉市民カレッジの学生と卒業生で構成される編集委員が編集し、市民カレッジ情報コースの卒業生が文字入力を行っています。

### さくら道

ずっと疑問だった。  
貧しい佐倉藩主が、なぜ大  
老までになれたのだろう。堀  
田家は老中まで出す家柄で、  
春日局の働きもあつたらう。  
松江藩松平家から幾千子は  
16歳で堀田正愛の後添で嫁い  
だ。やがて正篤（のちに正睦に  
改名）に惹かれ、本気で一緒  
になりたいと願った。当然だ  
が許される訳はなかった。幾  
千子は、義母として正篤を助

け、堀田家の守り神として生  
きると決意し、尽くし続けた。  
2人は当時、命がけで西洋  
の教えを受けた。開国の必要  
性を実感する。幾千子が男で  
あれば、幕府の重臣となり活  
躍したであらう。自分と共感  
する、布袋様顔の正篤に託し  
たのであろうか。  
甚大寺に幾千子の墓と筆塚  
がある。「現在の佐倉は、理想  
の町になっていますか」と姫  
に問いかけた。  
(春日 良子)

### あとがき

佐倉国際交流基金が主催し  
ている「国際交流のつどい」  
に佐倉在住の外国人で日本語  
を学習している方々に参加を  
依頼しました。お国自慢とし  
て、歌や踊りを披露し外国人  
を主体としたつどいを企画し  
た訳です。  
日頃、日本語学習で培った  
信頼感に期待して、各日本語  
教室のボランティア講師と連  
絡を取り、参加依頼をしまし

た。中でもフィリピンのバン  
ブーダンス、中国舞踊などは  
喝采を博し、最後に「幸せな  
ら手をたたこう」を日本語、  
英語、スペイン語、インドネ  
シア語など母国語で歌いまし  
た。本来スペイン民謡である  
この歌が、多くの国々で歌わ  
れています。それぞれの外国  
人は自国の言語や文化に誇ら  
しげであり、国際交流とは互  
いの異質を認め、尊重するこ  
とと再認識した次第です。

(藤橋 和夫)